



YOROZU

2022年度 決算説明会

代表取締役社長 平中 勉

YOROZU

株式会社 **ヨロズ**

東京証券取引所 プライム (証券コード：7294)

目次

YOROZU

- I. 決算サマリー
- II. 2022年度業績
- III. 2023年度業績予想
- IV. 2023年度の取り組み
- V. 株主還元

2022年度 実績

- ・下期の収益改善施策により**前期比約 1.5 倍の増益**
- ・適切な計画に基づく資金調達で財務状況は健全な状態を維持

2023年度 見通し

- ・市場動向を鑑み、主要顧客の生産台数は前期並み
- ・東海新工場、電動化対応等のコストを織り込むも合理化により前期比で増益
- ・中期経営計画YSP2023の取り組みを継続し、成長に向けた新たな取り組みに着手

株主還元

- ・2022年度の**期末配当は18円、年間25円**
(2021年度 配当実績 年間13円)
配当性向42.4%
- ・2023年度配当は年間26円 (予定)
配当性向42.0% (見込み)

I. 決算サマリー

II. 2022年度業績

III. 2023年度業績予想

IV. 2023年度の取り組み

V. 株主還元

2022年度連結決算概要 (前期比)

YOROZU

単位：百万円	2021年度	2022年度	前期比	2022年度 直近予想※2	直近 予想比
売上高	127,316	160,560	+26.1%	160,000	+0.4%
営業利益	2,096	3,088	+47.3%	2,500	+23.5%
経常利益	2,284	2,992	+31.0%	2,400	+24.7%
当期純利益※1	876	1,422	+62.3%	950	+49.7%

※1 親会社株主に帰属する当期純利益 ※2 2023年3月22日時点予想値

	2021年度 A	2022年度 B	増減額 B-A	増減率
一株当たり当期純利益	36円55銭	59円00銭	+22円45銭	+61.4%
連結取り込みレート	109円90銭 / \$	131円62銭 / \$	+21円72銭 / \$	+19.8%

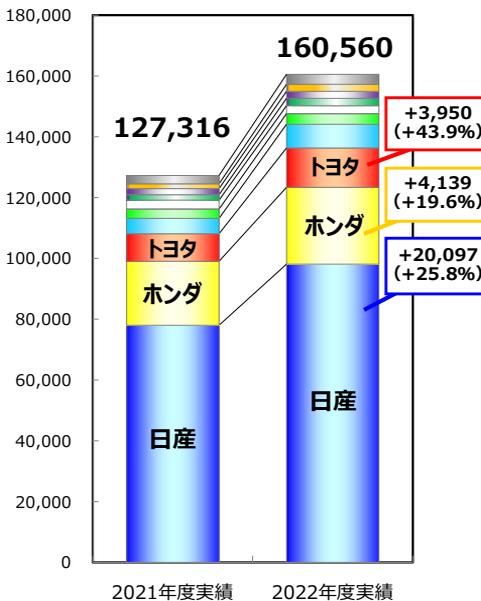
- ◆ 売上高 鋼材価格上昇と円安に伴う換算影響で増収
- ◆ 営業利益 合理化の着実な積み上げと一部エネルギーコストの回収等により増益
- ◆ 経常利益 営業利益の増加により増益
- ◆ 当期純利益 経常利益の増加及び税金費用の負担減少等により増益

連結得意先別売上高 (21年実績 対 22年実績)

YOROZU

単位：百万円

単位：百万円



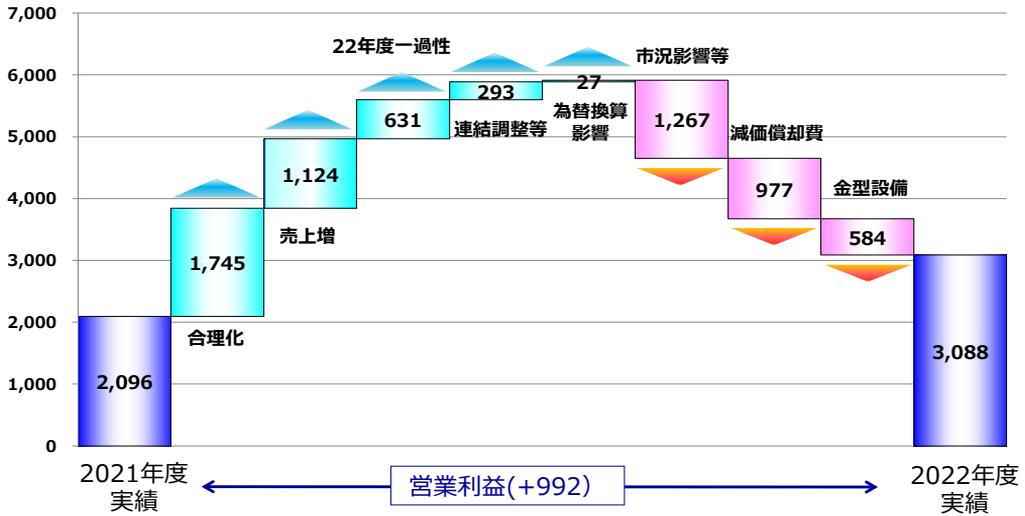
得意先	2021年度	(%)	2022年度	(%)
日産 Gr ※	78,015	61.3%	98,112	61.1%
ホンダ	21,095	16.6%	25,234	15.7%
トヨタ Gr	8,999	7.1%	12,949	8.1%
いすゞ	5,093	4.0%	7,814	4.9%
マツダ	3,060	2.4%	3,498	2.2%
クボタ	2,882	2.3%	2,626	1.6%
VW	1,857	1.5%	2,391	1.5%
Mercedes Benz	1,994	1.6%	2,386	1.5%
スズキ	1,593	1.3%	2,319	1.4%
その他	2,728	1.9%	3,231	2.0%
合計	127,316	100.0%	160,560	100.0%

※ ルノー・三菱向け売上含む

◆ ほとんどの得意先で2021年比増収

連結営業利益の増減要因分析 (21年実績 対 22年実績) YOR//ZU

単位：百万円



合理化の着実な積み上げと一部エネルギーコストの回収等により増益

地域別売上高・営業利益 連結調整前 (21年実績 対 22年実績) YOR//ZU

◆売上高

単位：百万円



◆営業利益

単位：百万円



- ◆ 日本 生産台数増加、ロイヤルティ収入増加等により増収・増益
- ◆ 米州 生産減少も為替影響により増収、生産台数減により減益
- ◆ アジア 鋼材上昇や為替影響により増収、生産設備補償等により営業利益微増

財務状況 2023年3月期

YOROZU

(単位：百万円)	2022年3月末 A	2023年3月末 B	前期比(B-A)	
自己資本	57,039	63,630	6,591	11.6%
自己資本比率	42.6%	45.0%	--	--
有利子負債	DEレシオ 0.60 34,259	0.52 32,835	△1,424	△4.2%
NET有利子負債	NET DEレシオ 0.09 5,392	0.14 9,217	3,825	70.9%
総資産	133,992	141,511	7,519	5.6%

(単位：百万円)	2022年3月期 通期累計 A	2023年3月期 通期累計 B	前期比(B-A)	
営業キャッシュフロー	14,914	2,924	△11,990	△80.4%
投資キャッシュフロー	△4,536	△5,164	△628	--
財務キャッシュフロー	△13,816	△4,819	8,997	--

適切な資金調達計画でDEレシオは健全な状態を維持

(ご参考) 連結貸借対照表の概要 2023年3月期 YOROZU

単位：百万円	2022年3月末 A	2023年3月末 B	増減 B-A
流動資産	66,475	72,582	6,107
固定資産	67,516	68,928	1,412
資産合計	133,992	141,511	7,519
流動負債	44,592	44,393	△199
固定負債	19,021	19,677	656
負債合計	63,613	64,071	458
株主資本	61,761	62,961	1,200
その他の包括利益累計額	△4,721	668	5,389
非支配株主持分他	13,338	13,809	471
純資産合計	70,378	77,439	7,061
負債・純資産合計	133,992	141,511	7,519

現預金	△ 5,249
受取手形及び売掛金	4,925
棚卸資産	4,972
その他の流動資産	660
有形固定資産	1,731
繰延税金資産	△278
支払手形及び買掛金	△ 864
電子記録債務	1,643
短期借入金	1,915
1年内返済予定の 長期借入金	△ 3,931
未払費用	1,034
長期借入金	1,284
退職給付に係る負債	△318
当期純利益	1,422
配当支払	△337
その他有価証券評価 差額金	269
為替換算調整勘定	4,940

I. 決算サマリー

II. 2022年度業績

III. 2023年度業績予想

IV. 2023年度の取り組み

V. 株主還元

2023年度連結業績予想の概要

単位：百万円	2022年度 実績 A	売上高 比率	2023年度 予想 B	売上高 比率	増減額 B-A	増減率
売上高	160,560	100.0%	160,000	100.0%	△560	△0.3%
営業利益	3,088	1.9%	3,200	2.0%	+112	+3.6%
経常利益	2,992	1.9%	2,700	1.7%	△292	△9.8%
当期純利益 ※ 1	1,422	0.9%	1,500	0.9%	+78	+5.5%

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

	2022年度実績 A	2023年度予想 B	増減額 B-A	増減率
一株当たり当期純利益	59円00銭	61円91銭	+2円91銭	+4.9%
連結取り込みレート	131円62銭 / \$	130円00銭 / \$	△1円62銭 / \$	△1.2%

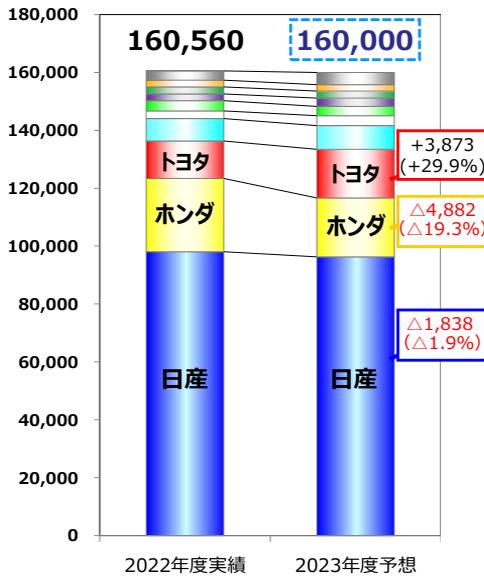
- ◆ 売上高 市場の回復は期待できるものの、前期並みを見込む
- ◆ 営業利益 将来に向けたコストを織り込むも、合理化により前期比で増益

連結得意先別売上高 (22年実績 対 23年予想)

YOROZU

単位：百万円

単位：百万円



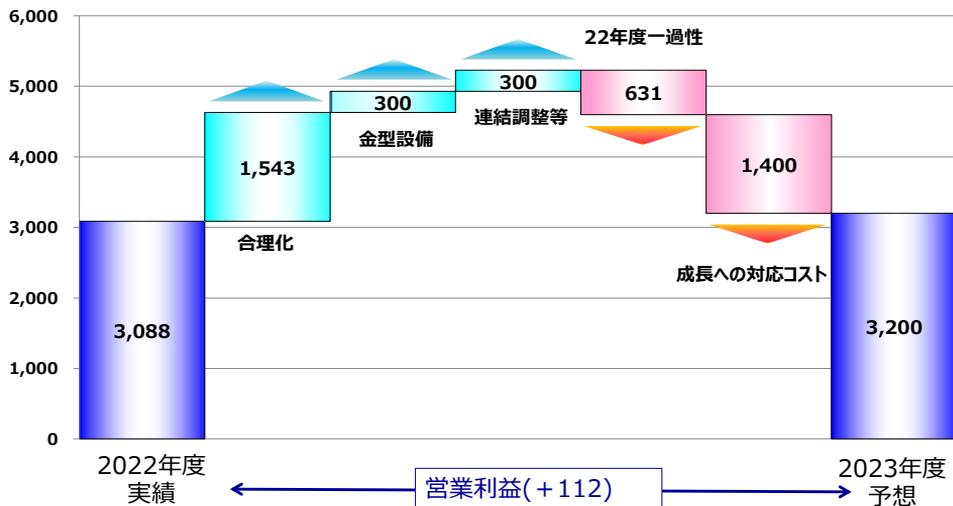
得意先	2022年度	(%)	2023年度	(%)
日産 Gr ※	98,112	61.1%	96,274	60.2%
ホンダ	25,234	15.7%	20,352	12.7%
トヨタ Gr	12,949	8.1%	16,822	10.5%
いすゞ	7,814	4.9%	8,131	5.1%
クボタ	2,626	1.6%	3,459	2.2%
マツダ	3,498	2.2%	3,270	2.0%
VW	2,391	1.5%	2,867	1.8%
Mercedes Benz	2,386	1.5%	2,372	1.5%
スズキ	2,319	1.4%	2,255	1.4%
その他	3,231	2.0%	4,198	2.6%
合計	160,560	100.0%	160,000	100.0%

※ ルノー・三菱向け売上含む

◆ トヨタ向け売上は新車受注で増加
初の売上高比率で10%超

連結営業利益の増減要因分析 (22年実績 対 23年予想) YOROZU

単位：百万円



合理化の積上げによる増益と成長への対応コストを見込む

地域別売上高・営業利益 連結調整前 (22年実績 対 23年予想) YOROZU

◆売上高

単位：百万円



◆営業利益

単位：百万円



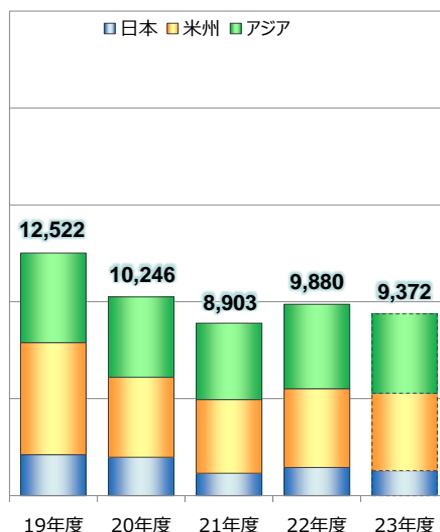
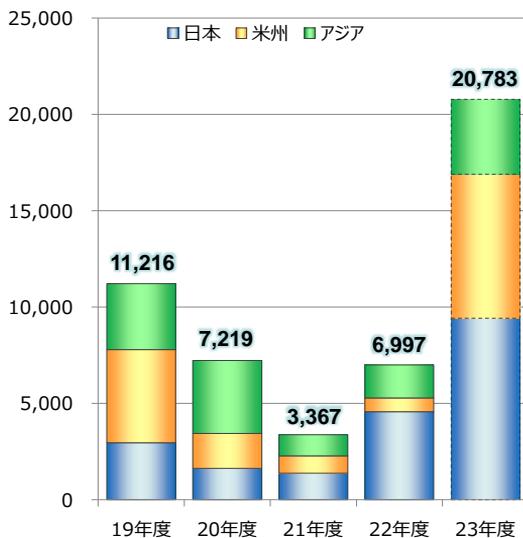
- ◆ 日本 生産台数増加により増収増益の見込み
- ◆ 米州 米国、メキシコの生産台数増等により米州では黒字を目指す
- ◆ アジア 日系メーカーの販売動向等を考慮し、減益となる見込み

設備投資と減価償却費

地域別設備投資

地域別減価償却費

単位：百万円



- I. 2022年度決算サマリー
- II. 2022年度業績
- III. 2023年度業績予想
- IV. 2023年度の取り組み**
- V. 株主還元

2022年度トピックス

方針		2022年度トピックス
全体		● 統合報告書の発行（8月）
ESG経営	E 環境	● ヨロズ大分（3月）、本社（7月）、庄内ヨロズ、ヨロズエンジニアリング（11月）の消費電力を100%グリーン電力へ切替 ● かながわ再エネ電力利用事業者認定取得（9月） ● ヨロズグリーン調達ガイドライン（改訂版）の発行（6月） ● ヨロズサステナビリティガイドライン（初版）を取引先へ展開（8月） ● 東海地区新工場 CNの取り組み
	S 社会	● 働き“方”から働き“がい”改革へ向けた施策の実施 ● 地域との共生の推進
	G ガバナンス	● 株主総会のWEB配信を実施（6月） ● お取引先様向け第三者機関による相談窓口の設置（10月）
	DX推進	● 現場におけるDXの推進
	安定した収益	● 安定した収益を支える徹底した取り組み ● 生産変動へ柔軟に対応する独自技術の適用拡大
新技術・新工法		● 社会や顧客に貢献するLCAでのCO2排出量削減技術の確立 ● 顧客軸・製品軸・地域軸による拡販への取り組み

次期中期経営計画 (FY24~FY26)

電動化時代に確固たる存在感を示す
ヨロズの成長戦略の構築と具体的な道筋をつける

成長基盤

E: 環境配慮

→ **カーボンニュートラル**

S: 社会的責任

→ **ダイバーシティ**

G: 透明性、ステークホルダーとの対話

中期経営計画
YSP2023
(安定した収益)

成長戦略

成長の核

→ **新技術・新工法
と拡販**

攻め

→ **東海地区 新工場**

新技術・新工法と拡販

取り組みの方向性

- CO2排出量削減に寄与する鉄製品の提案力強化
 - ・新プレス構造アーム
 - ・材料置換アーム
 - ・新設計バーリング構造
 - ・マルチマテリアル構造
- 超ハイテン材（980MPa）の製品化による軽量化
- EVに要求される静粛性向上への対応



■ CO2排出量削減に寄与する特許技術

特許技術 **新プレス構造アーム**
 (重量▲11% ※CO2削減▲2.0K ton)

従来構成部品を溶接して接合していたものを、一枚の鋼板で製品を成形する事に成功



トヨタ プリウス (HEV/PHEV)

リアロアアーム



レクサス RX (HEV/PHEV)

リアロアアーム



特許技術 **材料置換アーム**
 (※CO2削減▲28.1K ton)

アルミ部品を鉄製品に置き換える事で、材料製造時のCO2排出量を削減できるだけでなく、高い剛性も実現する事に成功



日産 セレナ (e-POWER)

フロントロアアーム

新技術・新工法開発 開発アイテム事例

YOROSUZU

特許
技術

新プレス構造アーム

(重量▲11% ※CO2削減▲2.0K ton)
国際特許番号 WO2022/185525 A1

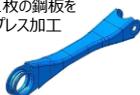
重要
ポイント

軽量化

◆従来部品
溶接構造の
3部品構成



◆開発部品
1枚の鋼板を
プレス加工



従来パイプ材等の構成部品を溶接して
接合していたものを、一枚の鋼板で製品を
成形する事に成功

特許
技術

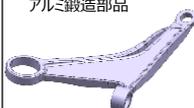
材料置換アーム

(※CO2削減▲28.1K ton)
国際特許番号 WO2022/070248 A1

重要
ポイント

アルミ品と同等の剛性を持つ鉄の製品化

◆従来部品
アルミ鍛造部品



◆開発部品
独自の新構造
溶接部品



アルミ部品を鉄製品に置き換える事で、
材料製造時のCO2排出量を削減できる
だけでなく、高い剛性も実現する事に成功

当技術は、追加車種へ投入決定
更なる拡販活動を継続中

© YOROZU CORPORATION. 2023 All Rights Reserved.

※モデルライフ6年、20万台/年 車種にご採用頂いた場合で試算 23

新技術・新工法開発

YOROSUZU

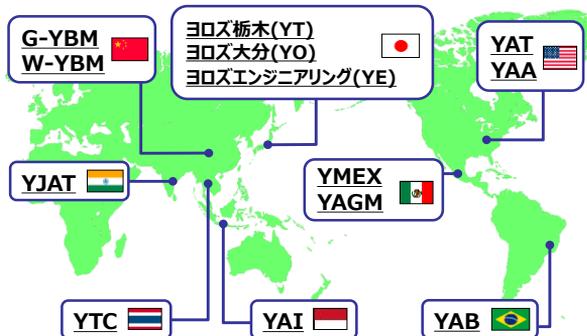
超ハイテン材（980MPa）の製品化による軽量化

当
社
の
強
み

- ◆**厚板加工技術の確立**により中型大型車種適用へ拡大
- ◆生産対応出来る大型プレス機をグローバルで保有

⇒23年度 市場投入が決定

1,000~3,500ton 大型プレス機保有拠点



鉄製品での技術貢献

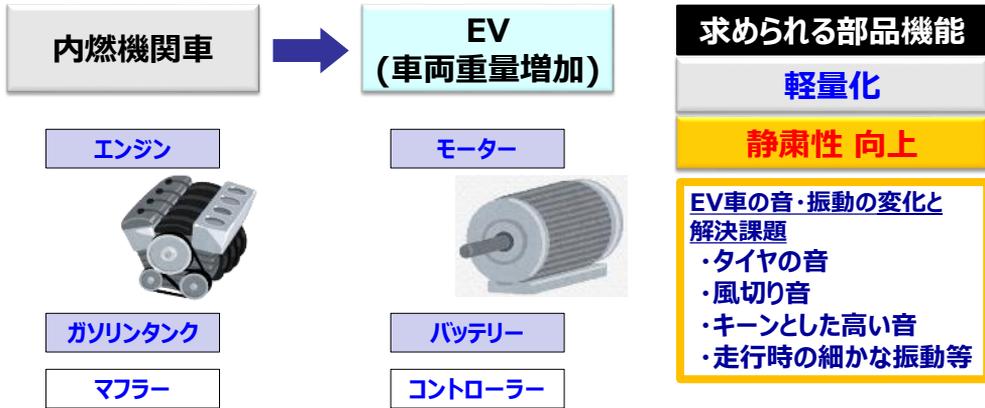
適用時期	23年度
アイテム	超ハイテン鋼板アーム (980MPa材)
開発 ポイント	超高強度材で板厚削減する プレス成形、溶接技術開発 市場投入決定
重量	▲15% (9.20kg → 7.82kg)
※ CO2 排出量	▲40.7 千トン

※モデルライフ6年、20万台/年 車種にご採用頂いた場合で試算

© YOROZU CORPORATION. 2023 All Rights Reserved.

24

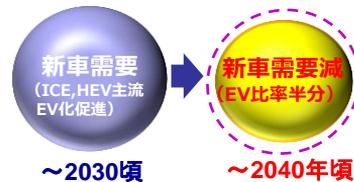
EVに要求される静粛性向上への対応



音・振動を細かく制御できる技術確立に向け
要素技術の開発に着手

YSP2023の先に向けた新たな取り組み

世界の自動車環境変化



- ・脱炭素社会実現に向けEV比率向上
- ・Maasの進展で「所有」から「共有」へ

自前の技術開発をベースに
「共同開発を含めた協業体制の構築」

オポチュニティ

- ・EV化技術要求の高度化 (重量・音・振動)
- ・電動化関連部品の増加

脅威

- ・自動車生産台数の減少
- ・分業構造の変化 (垂直型→水平型)

- ◆超ハイテン(980MPa)材 適用拡大に向けた技術の深化
- ◆自動車部品の新商品開発
- ◆新素材の新商品開発
- ◆非自動車部品への参入

電動化社会へ貢献する新技術・新工法と拡販 YOROZU



電動車向け製品の拡販を強化



日産 ARIYA
(BEV)



日産 SAKURA
(BEV)



日産 X-TRAIL
(e-POWER)



日産 セレナ
(e-POWER)



三菱 eKクロス EV
(BEV)



三菱 デリカミニ
(HEV)



電動化社会へ貢献する新技術・新工法と拡販 YOROZU



トヨタ bZ4X
(BEV)



トヨタ プリウス
(HEV/PHEV)



レクサス RZ
(BEV)



レクサス RX
(HEV/PHEV)



SUBARU SOLTERRA
(BEV)



マツダ CX-60
(PHEV)



ホンダ ACCORD
(HEV)



レクサス RX
(HEV/PHEV)



電動化社会へ貢献する新技術・新工法と拡販 YOROZU



日産 ARIYA
(BEV)



VENUCIA e30
(BEV)



DACIA SPRING
(BEV)



広汽ホンダ e:NP1
(BEV)



東風ホンダ e:NS1
(BEV)



東風EV新能源 EX1
(BEV)



広汽トヨタ bZ4X
(BEV)



電動化社会へ貢献する新技術・新工法と拡販 YOROZU

東海地区新工場を拡販の中心拠点へ

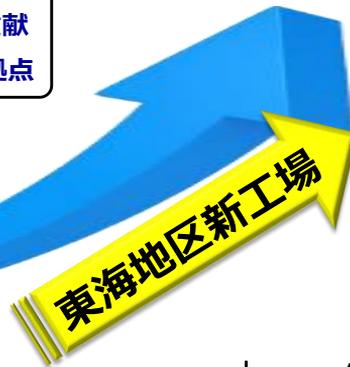
4つの取組みを企業の競争力として訴求し拡販へ

新工場の目指す姿 (4つの取組み)

- 「環境」に徹底的に配慮 「製品力」で電動化へ貢献
- 「地域」との共生 「CS/ES」誇れる拡販拠点

ヨロス愛知での電動車向け製品

トヨタ bZ4X SUBARU SOLTERRA



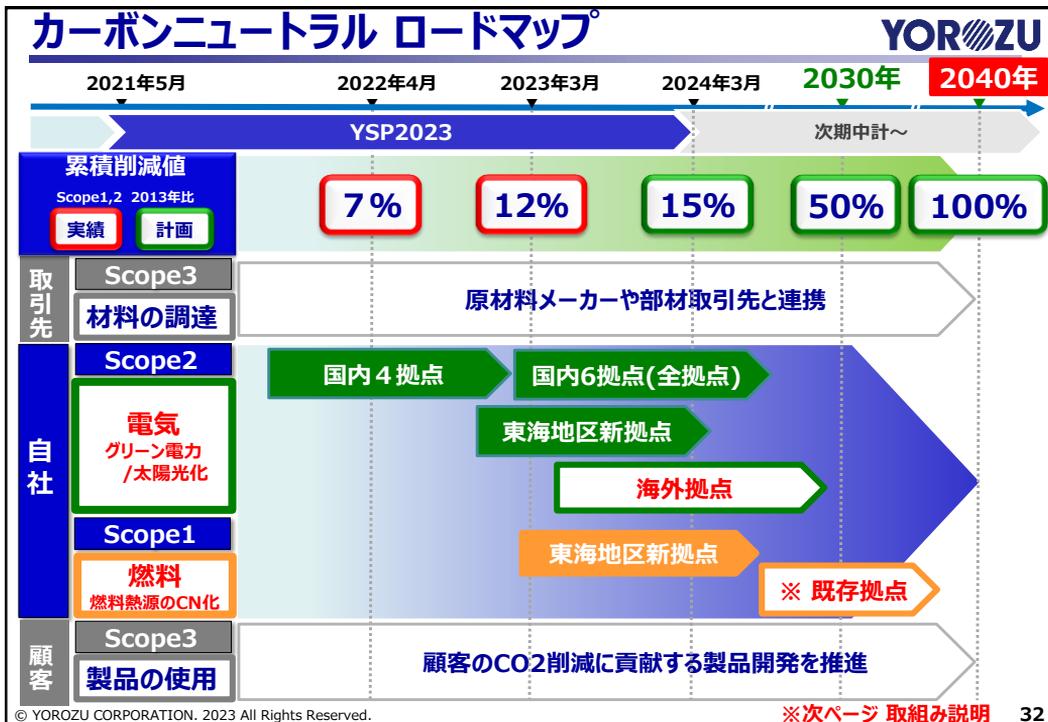
2021年

2024年

2027年以降

年度

カーボンニュートラル推進

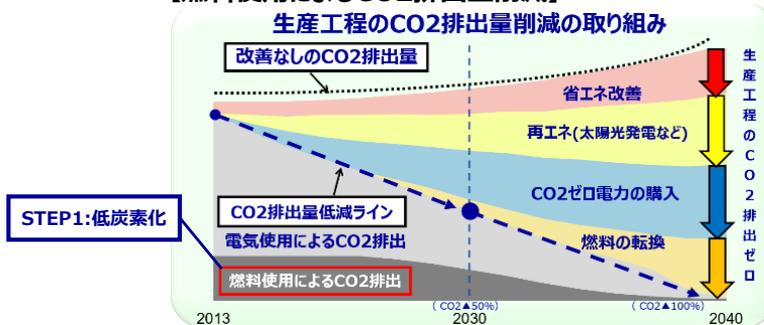


Scope1 : 既存拠点 塗装ボイラー 低炭素化

Scope1
燃料
燃料熱源の
CN化

- ◆ 東海地区新工場（100% カーボンニュートラル）
塗装設備の熱源をガスからグリーン電力に切替え
- ◆ 既存拠点（国内）
STEP1:LNG（液化天然ガス）への切替えで低炭素化

【燃料使用によるCO2排出量削減】



中期経営計画 YoroZu Sustainability Plan 2023

ダイバーシティ

人権デュー・デリジェンス活動

取り組み目標

人権への負の影響を防止・軽減する社会的責任の履行

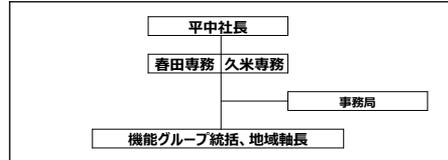
◆実施フロー



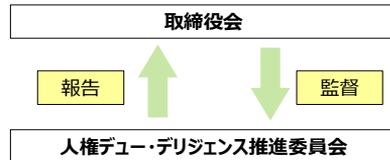
※OECDデュー・デリジェンス・ガイダンスに準拠

◆組織体制:

人権デュー・デリジェンス推進委員会



◆監視体制



	FY22	FY23
女性活躍推進	<ul style="list-style-type: none"> ・プラチナえるぼし認証（継続） ・女性面談 ・女性幹部候補者向け研修 ・一般職向けキャリア研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラチナえるぼし認証（継続） ・キャリア研修（技術系）
男性育児休業取得促進	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職向け理解促進研修 ・職場環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・くるみん認証申請（4月） ・取得対象者へのヒアリング

タレントマネジメントシステムの導入



- ・個人プロフィール
- ・評価記録
- ・1on1面談記録
- ・研修受講記録
- ・ESサーベイデータ



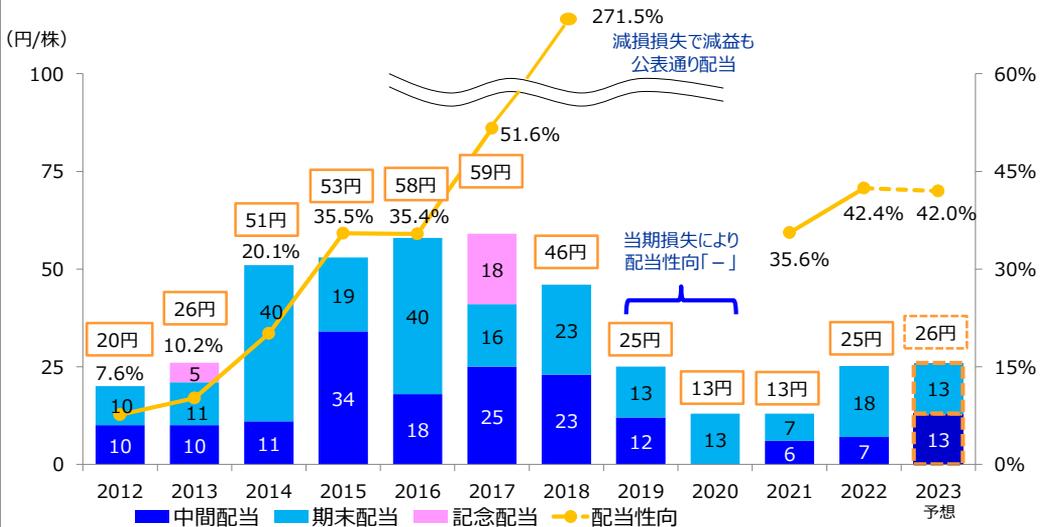
経営戦略に沿った
人的資本の価値向上

今後も「この会社ですっと働きたい」、「この会社にいられて良かった」と全従業員1人1人に感じてもらえるような職場づくりを目指して取り組んでまいります。



- I. 決算サマリー
- II. 2022年度業績
- III. 2023年度業績予想
- IV. 2023年度の取り組み
- V. 株主還元**

株主還元について



**基本方針は配当による株主還元
目標配当性向を35%以上としつつ持続的な配当を目指します**

—以上—

2022年度 YOROZU 決算説明会
ご清聴ありがとうございました

ヨロズ ホームページURL
<http://www.yorozu-corp.co.jp>

免責事項と著作権

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社と致しましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控え下さいますようお願い致します。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複写複製、または転送等を行わないようお願い致します。

●お問合せ

責任者：(株)ヨロズ 取締役専務執行役員
担当：(株)ヨロズ 経理部 経理グループ長

平野 紀夫
小澤 学

T E L 045-543-6802